

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 8 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100447		
法人名	社会福祉法人広島光明学園		
事業所名	グループホーム高陽荘		
所在地	広島県広島市安佐北区深川8丁目36-7 (電話) 082-842-2266		
自己評価作成日	平成 25年 7月 15日		
評価結果市町受理日	平成 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点, アピールしたい点（事業所記入）】

隣接している施設との交流を持ち楽しみのある生活を送ることが出来る

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	
------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 25年 8月 23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成24年4月に開設し、2年目を迎えたグループホームである。「特別養護老人ホーム」「ショートケア」「デイサービスセンター」「ホームヘルパー」「訪問入浴」「ケアセンター」が併設されており、地域に密着した総合介護施設となっている。 職員は、利用者の思いを大切に、利用者が自由に・のびのびと日々過ごせる様に、いつも優しく、笑顔を大切に寄り添っている。 地域の方々とのふれあい・交流にも力を入れ、地域の方々と一緒に楽しめる様々な行事を行っている。 山間の自然豊かな環境の中で、利用者は職員と共に充実したスローライフを楽しんでいる。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「甘露の雨とこしえに」の理念のもと、困っている方を助け、平等に入居者と接し共有してケアを行っている。	法人理念の下、更に「Let's work for the truth」「三宝の一如」「はるばると空を渡りて来し鳥の高陽荘は太きとまり木」を目標として掲げ、目の付きやすい場所に掲示している。毎日の勉強会では常に立ち返り意識をすることで、共有が図られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	公民館祭りや隣接の施設・幼稚園の行事への参加、交流をもちまたボランティアとの交流も行っている。	地域行事(とんど祭りや公民館祭り等)への参加、ボランティア(和太鼓演奏・フラダンス・オカリナ等)を迎える時には、近隣住民の方々にも声をかけ、利用者と共に楽しいひと時を過ごしてもらえる様、交流の場を設けている。又、隣接する同法人幼稚園との交流も盛んで運動会の見学に向いたり、園児が歌や踊りの披露のため来所するなど温かな交流も行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者の方々と園外散歩などで、近所の顔馴染みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議で家族や包括の意見、アドバイスを参考にし改善、向上の努めている。	2か月に1回のペースで運営推進会議を開催している。会議の参加メンバーは、光明学園副理事長・地域包括支援センター長・地域住民代表・家族代表・利用者代表・職員となっている。近況報告や行事報告を中心に行われ、貴重な情報交換の場となっている。	今後は、市担当窓口へ、運営推進会議の参加案内を出し、参加を促すと共に、出来るだけ参加者範囲を広げ、更に幅広い意見や情報交換が行われる環境を整えられるよう期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域の包括などお知らせや新聞を送付している。	地域包括支援センターなど、地域との連携が密に取られ、サービスの質の向上に活かしている。	疎遠に、なりがちな市担当窓口との連絡を密にし、さらに協力関係を深められるよう期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会で身体拘束・抑制になる行為を確認し、見守りや所在確認を行うなど取り組んでいるが事故防止の為に施錠している箇所もある。	常日ごろから勉強会等で話し合い、身体拘束に関する認識を深め、全職員で取り組んでいる。玄関や各所出入口、利用者の居室から繋がるベランダなど、目に付く所はオープンとなっている。施錠は防犯上夜間のみとされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会でスタッフと話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については勉強会などで勉強しているが今現在は活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約などの際は十分説明している。面会時にご家族より疑問やしつもんがあった時はその都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月入居者のご様子を手紙で送付し、行事や写真・ホームページで掲載し更新している。	苦情受付窓口の設置や第三者委員の専任するなど、必要な処理体制・手順が決められている。又、毎月発行される広報誌や各々の利用者の様子をお手紙や写真で家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	入居者の方により良い生活を送って頂けるようにスタッフの意見を取り入れ毎月勉強会を行い反映している。	毎月の勉強会や施設合同の職員会議等で、意見や要望を話し合える環境が整えられている。職員間のコミュニケーションも充分に図られており何かあれば、その都度話し合いを設け、日頃のケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフの個々の個性を活かし、スタッフがやりがいのある就業が行えるようシフトなど考えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフ一人一人の状況を把握し、勉強会や話し合いを行い向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修や公民館祭りや行事など地域交流の場で意見交換やネットワーク作りなどサービスの質を向上するよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人と会話の中で思っていること感じていることに耳を傾け、安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時や電話などでご家族からの要望や意見を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族のニーズを考え、適切な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフは入居者の目線で対応し、一緒に生活していると思って頂けるように努力している、		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人・ご家族の意向を聞き、出来る限りご家族と一緒に過ごせる様、外出・外泊を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人やご家族など定期的に面会に来られる方もおり、本人が慣れ親しんだ関係を維持できるよう配慮している。	利用者の自宅へ職員と共に出向いたり、買い物へ出かけたりしている。家族との外出(墓参りなど)もあり、馴染みの関係が途切れないように支援している。又、知人や友人が訪れた際には、お茶やお茶菓子で、おもてなしをするなど利用者との大切な時間をゆったりと過ごしてもらえる様に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係を把握し、良好な関係が継続できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご本人・ご家族の要望があれば支援できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者やご家族から話を聞き、希望や意向の把握に努めている。	利用者・家族の意向や思いを話し合いなどで把握に努め「暮らしの情報シート」や「アセスメントシート」にまとめられている。この情報は全職員で共有し、利用者の思いに沿った支援となるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からや入居者とのコミュニケーションの中で分かったことを記録し、共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人に合った日常生活を把握し記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人やスタッフと話をしたり、ニーズを把握し、現状に即した計画を作成している。	収集した情報(暮らしの情報シートやアセスメントシート)を元に話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎の見直し、1年に1回は介護計画の立て直しが行われている。モニタリングは、わかりやすく作成されている1ヶ月毎の日割りチェック表で、まとめ評価されている。これをベースに月1回のケアプラン担当者会議で十分に話し合っ評価を確認し、現状に即した介護計画見直しにつなげている。	日割りチェック表の活用方法(毎日チェックし記録するなど)の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に実施や袖須などを記録し、情報を共有して気づきや改善策を話し合い見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状ではサービス以外に独自で考え、なるべく入居者にあったニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	隣接している施設やショッピングなどに出向き、楽しみのある生活が送られるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・ご家族の要望を聞き主治医との連携を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	毎日のバイタルチェックの他、週1回の訪問看護師による健康診断の実施、併設の特別養護老人ホームには、看護師も常動している為、本人・家族の安心へと繋がっている。協力医療機関との連携も密に図られており、適切な医療が受けられる体制が整えられている。又、家族の協力が得られる場合には、今までの、かかりつけ医での受診も可能である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪看時や併設施設の看護師に必要なに応じて相談をし、助言を受けてその都度対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に様子を伺ったり、ご家族と連絡を取り、様子や情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合はご家族・ご本人と話し合い、出来ることをスタッフと共に取り組んでいる。	本人や家族の意向を出来るだけ汲み取り、関係者で話し合い、最善の対応となるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会で急変時や応急処置の知識を取り入れている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に地域と避難訓練を行い応援・消火・避難活動を行っている。	年2回消防署立ち合いの下、避難訓練を実施している。又、夜間想定を中心とした、施設独自の消火・避難訓練を毎月1回行うなど、併設施設全体で緊急時の協力体制を築いている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の言葉使いや対応に十分配慮し、対応している。	毎日の勉強会でも利用者への対応の仕方等は、見直す場となっている。配慮に欠ける言動や行動があった場合は、その都度職員間で注意し合うなど、常に気を配っている。個人情報の管理は、ロック式の棚で保管されており、包丁などの刃物も同じようにロック式の棚で保管し安全面での配慮がうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や意思や意見を尊重し、自分で決めて頂くよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースでやりたいことなど希望に沿って支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の自己決定により衣類など希望にそい、助言しながら支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	品数を増やしたり、行事食や楽しくなるような盛り付けをし、配膳や片付けを行っている。	併設の特別養護老人ホームに厨房があり、管理栄養士によるバランスのとれた美味しい食事が提供されている。更に、当グループホームでは、1皿分の品数を増やすなど視覚からも食欲をそそられる様に職員の工夫がみられる。又、利用者のお誕生日会には、職員手作りのパースデーケーキでのお祝いの他、「お好み焼き」や「鍋パーティー」も行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によりバランスやカロリー計算を行い、水分量も毎日把握し、一人一人の状態がわかるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分で出来ない方などは声掛けや支援により口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行い、トイレへ行く習慣をつけている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、無理強いはず自然なトイレ誘導の声掛けを心掛けている。トイレは、各ユニット毎に、車椅子対応タイプも含めて2ヶ所ずつ設置しており、利用者は自分に合ったタイプのトイレを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	主治医と相談したり、寒天やプルーンなどお食べたり運動を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	夜間はリスク管理のため、行っていない。入居者に入浴日以外に希望をされたときは入浴して頂いている。	清潔を保つ為に週2回は、入浴をしてもらえる様に支援している。入浴には、あまり興味を示さない利用者も居る中、入浴予定日以外への変更や、ゆっくりと寛いでもらえるよう入浴剤を使用するなど、楽しいバスタイムとなるよう、職員は工夫をし柔軟な支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望やリズムに合わせて入眠して頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の作用・副作用に留意し、本人の体調の変化に気をつけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の能力や楽しみを見出し、充実した生活が送られるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や天候によって園外散歩を行い、車椅子や歩行が難しい方も用具などを活用し支援している。またショッピングも希望されれば人数を募り、行っている。	のんびり散歩をするには、絶好の環境となっており、気候の良い時には、利用者は職員と共に園外散歩を楽しんでいる。施設の沢山の季節行事(お花見・ガーデンパーティー・ピヤガーデンなど)への参加やショッピングなど、ホームにこもらない生活を送ってもらえるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本、預かりをしているが、本人が希望されたり、買い物時は所持し使えるようにしている。また小遣い程度なら持っておられる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望時には手紙やはがきが送られるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が把握出来るように案内を出しまた不快にならないように清潔面に気をつけている。	全てがバリアフリーで繋がり、十分な広さと優しい明るさに包まれた共用スペースとなっている。ユニークな形の5人掛け用テーブルは組合せにより形を変えられるなど、ホームで使用する家具は、職員の希望や意見が活かされ、利用者にとって使い勝手の良いものとなっている。壁には利用者と職員が一緒に作った作品が綺麗に飾られ、季節感も味わえることが出来、落ち着いてゆったりと過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一緒に過ごす方もおられれば一人でいるほうが良いと言われる方もおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人・ご家族と相談し、本人に危険でない限りタンスや仏壇・写真などをおいている。	清潔感漂う居室には、タイプの違う3つの収納タンス・冷暖房設備・時計・ベッドが各部屋に設置してある。全ての居室からバリアフリーでベランダへと繋がっており、とても明るい。又、壁が可動式となっている居室が2つあり、壁を無くして部屋を繋げ夫婦部屋としても利用出来る様になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は転倒リスクを最小限に工夫され安全に自立した生活が送られるよう配慮されている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="radio"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="radio"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="radio"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="radio"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="radio"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）

2 目標達成計画

事業所 グループホーム 高陽荘

作成日 平成 25年 8月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	モニタリング評価表の活用方法について	毎日の実施	スタッフと話し、モニタリングのチェックの方法を伝授し、日割りチェック表として毎日折り組むとする。	すぐに
2	4	運営推進会議の参加取り組みについて	推進会議実施日程を送付	推進会議の次回の開催日程、参加案内を作成し送付する。	1ヶ月以内
3	5	市町との連携について	市担当窓口への訪問	活動報告を市へ周知して頂き、情報や協力を得るよう訪問する。	1ヶ月以内
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。